

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3272200555
法人名	社会福祉法人 隠岐共生学園
事業所名	グループホーム やすらぎの家
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町城北町533番地3
自己評価作成日	令和4年10月30日
評価結果市町村受理日	令和5年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [32/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3272200555](https://22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3272200555)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット
所在地	島根県松江市白湯本町43番地
訪問調査日	令和4年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームやすらぎの家は田圃に囲まれテイルームの大きな窓から四季折々の風景が楽しめます。夏には鶯が飛来し近くで見ることができます。楽しみのある生活が送れるよう、お弁当を持って出かけたり、四季折々の行事を行っています。日々の生活の中で歌を歌ったりゲームをして過ごしています。又残存機能能力の維持、QOLの向上を目指し一人一人に合った声掛け、支援を行っています。訪問看護師が週に1回訪問し、健康状態を確認します。異常があれば直ぐに主治医と連携できる体制が出来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の自己実現に向けて本人に合わせた支援に取り組み、毎日の生活の中で利用者との話に耳を傾け共感し、少しでも希望や要望に添えるよう努めている。コロナ禍で出来ない事があるが行事、遊び、訓練など気分転換が出来るよう職員が話し合い工夫して支援している。食事は地元の野菜、魚など旬の食材を使い季節に合わせた料理を楽しんでもらっている。感染防止対策をしながら状況を見てドライブや花見、弁当を持っての外出など、少しでも利用者のストレス解消になるよう支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を管理者・職員が理解し実践に繋がられるよう掲示されている。人事考課の中で確認し共有している。	年に何回か法令、倫理について話し合い共有すると共に、実践の場で利用者一人ひとりの自己実現に繋げる支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中ボランティアや外部の方の受け入れが出来ない状況であるが、第三者委員会や地域の清掃活動は、地域の一員として交流し、参加している。	職員は地域の活動に参加し関係維持に努めている。第三者委員会の協力で2ヶ月に1回利用者とのお茶会に参加してもらい「おしゃべりの時間」を設けて交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の中、地域との交流が出来ない状況であり、地域貢献は出来ていない。コロナ感染が収まれば地域交流していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も文書での開催。利用者の状況や事故、ヒヤリハット・苦情・活動内容を報告し、家族・地域の方・隠岐の島町福祉課からの意見を真摯に受け止め、サービス向上に繋げている。	現在の状況を詳しく説明し意見を聞いている。コロナ禍の事業所、職員に対しねぎらいの言葉をかけてもらう事もあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回隠岐の島町役場福祉課の方が開催する連絡会に出席し、他事業所の方や地域の民生委員の方、隠岐病院、社会福祉協議会の方々と情報交換を行っている。	定期的に町の関係機関と話し合い連携を取りながら情報を共有し協力して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回身体拘束廃止に向けたチェック項目を職員全員で確認し合っている。3ヶ月に1回身体拘束・高齢者虐待についての研修会を開催している	年3～4回の研修会や毎月、項目ごとに確認や話し合いをしている。本人の意思を尊重し、指示語や制止、否定をしない対応を心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を行っている。業務の中で見逃さない様になっている。気づいた時はその場で言える環境づくりや、改善策を職員で話し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会で学ぶ機会を設けている。現在制度を利用されている利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約・改定の際は管理者がご家族様や利用者様に説明をしている。不明の点や不安の点などいつでも対応できる体制である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、運営委員会や、担当者会、面会時に意見・要望を聞かせて頂く機会を設けている。	家族、利用者の要望や思いを聞いて出来る限りの対応に努めている。希望があれば窓越し面会も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回業務検討会を開催し、意見や要望を聞いている。全てを反映するのは難しいが出来る様努めている。	毎月、会議を開催し意見や気づき、提案を聞いている。職員の休憩時間の確保が難しかったが増員により改善を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を行い、職員の目標・意見・やりがい等について記入して頂き、面談を行い把握出来ている。職場環境については月1回衛生委員会を開催しており業務検討会で報告・検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に2回人事考課を行い職員の評価を行い、面談をしている。資格取得やスキルアップの為に研修参加の働きかけを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時に同業者との交流があり、情報収集している。地区の連絡会や法人連絡会に参加し、知り得た情報は業務検討会で報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に関係事業所から情報収集を行い、自宅に訪問し生活状況、環境面を把握している。本人・家族様との関係づくりを行いながら施設見学を勧めている。自宅と同じスタイルで生活できるよう、要望・相談が出来る雰囲気づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や不安に思っている事、要望等は丁寧に聴き取りをしている。家族との関係が途絶えない様、日頃の生活状況の連絡や、受診時の連絡又は一緒に付き添っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の意向と実際に必要と思われる支援の相違がある場合はサービス導入後の見立てを説明し理解して頂く。望む生活の実現の為、他のサービス利用も提案する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が長年生活してきた力を低下しないよう一人の生活者として捉え、一人一人の能力を引き出し発揮出来るよう支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との絆を大切に、連絡をこまめに行っている。何時でも相談できる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所する事で馴染みの方と関係性が途切れないよう、面会や、電話、馴染みの場所へドライブ(故郷訪問)に行っている。	電話や便り、DVDを使ったり、状況に対応しながらドライブで馴染みの場所に行くなど工夫し支援を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格や関係性を配慮し孤立しない様に利用者同士が関りが持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、家族からの相談や情報を大切に経過のフォローも心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を伺っている。言葉や表現で表すことが困難な場合は小さな変化や表情等観察し、見落とさない様にしている。知り得た気づきは業務検討会時に検討している。	担当制をとり「利用者に共感」を大切にして支援をしている。入浴時や居室など1対1の場面で傾聴し検討会で共有しながら支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に関係事業所や家族、ご本人から情報収集を行い、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々一人一人と関わり合うことで心身の状態や変化の気づきを記載している。月に1回カンファレンスを実施し職員間で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会を開催し本人、家族の思いや意向を取り入れた介護計画を作成している。居室担当者がモニタリングを行い、職員全体で検討し、介護計画にも反映している。	担当者がモニタリングをし検討会議で話し合い必要に応じて柔軟に追加や見直しをしながら状況に即した介護計画を作成している。趣味や好きな事、してみたい事などを反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に日々の変化や様子を記載している。月に1回モニタリングを行い、ケアの中での失敗例や成功例を職員同士で共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に生まれるニーズに対応できるようにその都度職員間で話し合っている。コロナ禍の中対応が難しい時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナウイルス感染予防対策中の為外部との交流が出来ない。外出ドライブや、遠足、誕生日会、レクリエーションを工夫をし、楽しみのある暮らしが出来る様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師が状態観察に来られる。月に1回かかりつけ医師の往診を実施している。特変時はいつでも相談できる体制が出来ている。	連携を取りながら利用者の健康状態を把握出来る体制を取り適切な医療が受けられるよう支援している。専門医への受診には家族が同伴することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師が来られ、体調管理や医療的な相談が出来ている。必要時には早期の受診が受けられる事で安心した日常生活が過ごせている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者と密に連絡をしている。入院前には普段のADL状態や施設での様子を詳しく伝えている又退院する際には安心して生活を送れるよう、カンファレンスには同席させて頂き情報の共有が出来、受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族様に本人と重度化や終末期の意思確認を行い、事業所で出来ることを説明している。重度化した場合再度話し合いの場を設けている。職員間でも情報を共有し対応を話し合っている。	現在のところ重度化、終末期、看取りについての希望はないが対応する準備は出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のフローチャートを作成し、直ぐ確認できる場所に張っている。事故発生マニュアルを作成している。研修会を開いて訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。水害、災害時の訓練も定期的に行っているが地域との協力体制はコロナ禍の中出来ていない。	火災、水害に対する訓練は定期的実施している。日頃より職員は点検や備品の確認をしている。地域との訓練はコロナ禍の為中止をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇、マナープライバシー保護についての研修会を開催している。職員間で再度相手の気持ちを考えた言葉かけや対応をしているか検討し改善している。プライバシーを損ねた対応をしていないか常に意識している。	利用者の羞恥心や自負心を尊重し、言葉づかいや対応、職員同士の会話にも気をつけている。みんなで情報を共有しケアの振り返りを行いながら意識して取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情や言葉、内に秘められた思いを聞き出すよう心掛けている。個々の中核症状を把握したコミュニケーションを行い、本人が自己決定出来るよう働きかける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調を見ながら一日の流れに沿って過ごしている。レクリエーションの参加、個別支援は本人の意向を確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容院の方が来て対応している。可能な時は行きつけの美容院に家族と一緒に出かけ気分転換に繋がっている。衣類は自分で選べるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元で採れた旬の野菜や米を使用し、地元特有の食べ方で提供している。最近では職員と一緒に干し柿づくりを行った。後かたづけも利用者の出来る範囲で一緒に行っている。	声掛けをしながら出来る事に少しでも関わられるよう支援している。旬の野菜や魚、郷土料理、好きな物や希望の物を提供している。干し柿、切り干し大根づくりなどの場面を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併施設の管理栄養士の献立表を参考にし、バランスの取れた食事提供をしている。水分量が不足しないよう気を付けている。一人一人の好き嫌いな物を把握し嫌いな献立の時は代替りの物を提供している。個々の状態に合った刻み食やお粥を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをしている。一人で難しい方はサポートに入り確認している。夜間はポリデント洗浄を行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	汚染がある方は、排泄の時間帯や排泄の間隔を把握してトイレ誘導を行っている。個別手順書を作成し職員間で自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりに対して適切な支援が出来るように手順書をつくり、その人のペースに合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に記載することで排便の確認ができています。便秘時は食事の工夫、水分補給に心がけている。毎日体操の声掛けしたり、個別で歩いたりしている。便秘が続くと主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人希望や精神状態に考慮して声掛けしている。入りたくないと言えば日にちを変えたり、時間を変更し、本人のペースに合わせた入浴を行っている。	本人の状況を見ながら声掛けをして柔軟に対応し、少しでも気持ち良く入浴してもらえるよう音楽を流したり季節のしょうぶ湯、ゆず湯などを楽しんでもらえる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室があり、本を読んだりテレビを観たり、自由に過せるように支援している。家から持って来られた布団や家具を置く事で安心できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	決められた時間に確実に服薬できる状態に対応できている。一人一人の服薬の名前・効能・副作用・注意事項を職員が見れるようにしている。薬の変更があれば申し送り・連絡ノートに記載し症状の変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を確認している。洗濯物たたみやおしぼり畳、茶碗洗いなどの役割を持つことで張り合いを持って頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中外泊や買い物は控えている。行事、レクリエーションを工夫している。花見や紅葉ドライブ、遠足など希望に沿った場所に行き、お弁当を持って出かけている。個別でドライブしたりしているが、利用者からの不満も多くその都度説明している。	現在は買い物や人が集まるイベントに行けないので不満があるが、少しでも解消できるような状況を見ながらドライブや弁当を用意して遠足や花見などに出掛け工夫して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は家族と相談し職員が行っている。手元に置くことで安心する方はご自分で管理している。コロナ禍の中買い物へ行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍の中面会ができない状況が長く続き、本人の希望又は声掛けをし、電話で話せるよう支援している。手紙のやり取りが出来るようハガキ、手紙を用意している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やディルームに季節の花や、野菜を飾っている。最近では大人の顔程のさつま芋を観賞用に置いている。外の景色が見える位置にソファを置きお茶を飲みながらゆっくり過ごせるようにしている。	花や飾り付けなど室内でも季節が感じられるように工夫し、塗り絵や習字などの作品を掲示し話題提供に活かしている。ソファは自由に動かせ思い思いのスペースで過ごしてもらえるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではソファが自由な形に移動が出来る。広く使われている為、気の合った方が集まったり、居室は寂しいと言われソファで横になる方もいる。思い思いに過ごせるよう対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	すべて個室になっている。自宅での生活環境を情報収集し本人、家族と相談しながら家具の設置をしている。使い慣れたお茶碗、布団、家具、趣味の物や家族の写真、仏壇等を持ち込み安心した生活が過ごせるよう工夫している。	利用者に合わせ安全に生活出来る環境づくりをしている。自宅と同じ様にと家族にも相談して使い慣れた物、好きな物を持って来てもらい本人にとって居心地の良い居室になるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内にはカレンダーと一日の流れを置いてある。各々時間を確認して共同スペースに来られる。廊下・浴室・トイレに手摺が設置している。身体機能に応じた声掛けをしている。安心・安全な生活が送れるようにしている。		